

6年2組教室

本時で目指す授業

人間の心の弱さを理解しながらも、きまりを守ることは、みんなが安全かつ安心して生活できる社会につながることを理解し、日頃から進んできまりを守ろうとする心情を育てることを目指す授業。

1 主題名 きまりを守るとは

2 教材名 「ここを走れば」(きみがいちばんひかるとき6年 光村図書)

(C-(12) 規則の尊重)

3 本時の目標

危篤の祖父のもとへ向かうときでさえ交通規則を守る父親と、その姿を見つめる「ぼく」の姿を通して、人間の心の弱さを理解しながらも、きまりを守ることは、みんなが安全かつ安心して生活できる社会につながることを理解し、日頃から進んできまりを守ろうとする心情を育てる。

4 目指す子どもを育てるために

(1) 子どもの実態

- ・本学級は素直な児童が多く、学校や学級のきまりは守るべきものとして理解している。修学旅行に向けても、自分がきまりを守るのはもちろん、廊下を走る人に声をかけたり、コロナ対策としてマスクの着用や3密を避けるよう呼びかけたりするなど、全体の意識を高め、いつでも誰でもきまりを守れる集団になろうという考えをもつ児童が多い。
- ・一方で、遊びや行為に夢中になり、きまりを守るという意識が弱くなったり、教師がいないところではきまりを守れていなかったりするなど、何のためのきまりなのか深く考えていない児童も多い。

(2) 教材について

- ・本教材の概略は以下のようになっている。
離れたところに住む祖父が倒れたという知らせを受け、「ぼく」や父は車で向かうが、高速道路で事故による渋滞に巻き込まれる。路側帯を通り過ぎる車を見て、急いでいるのだから路側帯を走ればいいのと思う妹や「ぼく」であるが、父は走ろうとはしない。病院に到着したときに祖父はすでに亡くなっていた。
- ・本教材は、葛藤的要素を含んだ教材である。本時では、主人公を自分と置き換えて自我関与させながら、危篤の祖父のもとへ向かうときでさえ交通規則を守る父親と、その姿を葛藤しながら見つめる主人公の姿を通して、きまりは何のために存在するのか、そして何を大切にきまりを守ろうとするのか考えさせるという視点で教材を活用する。

(3) 手立て

- ・まなボードを活用することで価値観が見える化し、対話を通して考えを深める場の設定
個々の考えを付箋に書き、まなボードに貼る→チャートを活用し仲間分けをする→まなボードにシートをかぶせ、対話しながらキーワードや気付いたことを加筆し考えを深める
- ・個々の納得解を引き出す問い
「父は後悔しているのか」「きまりはどんな状況でも守らなければいけないものなのか」「父には路側帯を走るという気持ちは全くなかったのか」等の補助発問や問い返し

(4) 目指す子どもの姿

問題解決的な学習展開、葛藤状況についての丁寧な対話を通して、きまりの意義について多面的・多角的に捉え、考えを深めながら、きまりを守ることの身構えを自己の生き方につなげていく姿。

主に働かせる見方・考え方
きまりの意義について多面的・多角的に捉え、理解を基として自己の生き方に関わ
つり
いて
で
広
い
考
え
る
こ
と。

5 本時の学習

(1) ねらい

危篤の祖父のもとへ向かうときでさえ交通規則を守る父親と、その姿を見つめる「ぼく」の姿を通して、人間の心の弱さを理解しながらも、きまりを守ることは、みんなが安全かつ安心して生活できる社会につながることを理解し、日頃から進んできまりを守ろうとする心情を育てる。

(2) 学習指導過程

○主な発問 ●中心発問	予想される児童の発言・思考	教師の関わり ◎評価 教師の手立て
<p>1 身の回りのきまりについて考える。</p> <p>○身の回りにはどんなきまりがあるだろう。</p> <p>○きまりは守れているだろうか。守れないのはなぜだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">きまりとは何だろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下を走らない。 ・3密を避ける。 ・信号を守る。 ・廊下はつい走ってしまう。 ・何かに夢中になってしまふときは、意識がなくなる。 ・悪いと思っても他の人もやっているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の身の回りがあるきまりをいくつか想起させ、どのくらい意識して生活しているかを考えさせる。 ・きまりを守って生活しなければならぬ気持ちはあっても、守れない心の弱さもあることに気付かせることにより価値への方向付けを図る。
<p>2 教材「ここを走れば」を読んで、話し合う。</p> <p>○父が規則を破ることができないと言ったときに、ぼくはどんなことを考えていたのだろうか。</p> <p>○父の涙にはどんな思いが込められているのだろう。</p> <p>○父が大切にしていたこととは何だろう。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・路側帯を走れば、間に合うかもしれないのに。 ・おじいちゃんに早く会いたい。 ・何で路側帯を走らないの。お父さんは心配じゃないの。 ・路側帯を走っている車もあるのに、そんなにきまりが大事なの。 ・お父さんも苦しいのに、尊敬する。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の父に生きているうちに会って話をしたかった。 ・これでいい。まちがっていない。 ・きまりを破って会えたとしても、おじいちゃんは悲しんだはず。 ・天国でおじいちゃんが、「よくやった」と言ってくれたと思う。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・救える命。自分の家族の命も大切だけど、事故に 	<p>まなボードを活用することで価値観が見える化し、対話を通して考えを深める場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎にまなボードを活用し、付箋を貼ることでそれぞれの考えが見える可して整理させる。その後、キーワードや気付いたことをペンで加筆させ考えを深めさせる。 ・自分だったらという視点で自我関与させる。 <p>個々の価値観の再考を促す問い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「父は後悔しているのか」「きまりはどんな状況でも守らなければいけないものなのか」「父には路側帯を走るという気持ちは全くなかったのか」等の補助発問や問い返しにより、無念さへの共感から、価値ある行為への肯定、尊敬の念を高める。 ・父の深い判断の根拠やその良さに気付かせる。

<p>●きまりとは何だろう。</p>	<p>会った人をきまりを守る ことによって救えるかも しれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を優先するより，みんなの安全。 ・きまりはみんなの安全のためにあるもの。自分勝手は許されない。 ・きまりは命を守るためにあるもの。 ・きまりを守ることでみんなが気持ちよく過ごせる。 ・決してきまりを守ることは簡単ではない。日頃から意識を高めなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマと同じ問いを投げかけることにより，価値観の再考を促し，思考や認識の深まりを実感させる。
<p>3 自己の生き方について考える。 ○これからの自分の生き方について考えてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりはみんなが安全に暮らすためにあることだと思う。また，自分を優先すると後で後悔することが分かった。 ・きまりが何のために何を目的にして作られているのかが分かった。自分の理由をつけてきまりを破っていると，言い訳だらけになってしまうと思う。 ・「こんなきまりはなくていい」と思っていたことでも，みんなのためにあるんだということが分かった。これからは，なんのためのきまりなのか考えていきたい。 	<p>◎人間の心の弱さを理解しながらも，きまりを守ることは，みんなが安全かつ安心して生活できる社会につながることを理解し，進んできまりを守ろうとしている。</p> <p>(発言・道徳カード)</p>

【参考文献】

『道徳教育』5月号，明治図書，2020

6 授業の考察

(1)授業者から

きまりを守ることは，みんなが安心して生活できる社会につながることを理解し，日頃から進んできまりを守ろうとする心情を育てることをねらっていたが，その時の状況によってはきまりを守れないこともある，というような考えも出された。「命」や「またとない機会」というものと，「きまり」のどちらが大切なのかを比べた児童もいたため，きまり守らなくてもよいという考えに至った児童もいたが，ワークシートの記述を見ると，きまりを守ることが大切だという考えに至った児童が多かった。

(2)道徳カードの記述から

- C 1…私は大切な人が事件に遭ったりしたら，お父さんのようにきまりを守れないと思います。どうしてかという，大切な人と最後まで一緒にいたいからです。なので，お父さんはとてもすごいなと思いました。
- C 2…きまりはみんなが気持ちよく過ごすためにあるものだから，きまりをやぶってはいけなくと思う。緊急事態などの時はしょうがないという思いはあるけど，きまりは守らなくてはいけなくと思う。
- C 3…人のためを考えることにはいろいろあるということがわかりました。私はきまりを守ることを優先したいです。

C 4…ルールは絶対に守らなければいけないし、緊急事態だとしても、周りの人も困っているのだから、ルールに従わなければならない。

C 1は、登場人物のお父さんに自我関与して、きまりを守ることの難しさについて考えることができています。C 2, C 3, C 4は、きまり守ることの意義（他者への思い、社会全体の利益）について深く考えることができていた。

(3) 提案内容についての話し合いから

①まなボードを活用することで価値観が見える化し、対話を通して考えを深める場の設定について

- ・まなボードを使って自分の考えを書く際の視点が、「自分と重ねて」ということであったが、それで良かったのか。まず、「ぼく」に対して自我関与させてからの方が良かったのではないか。
- ・Yチャートにより意見を整理していったことで、それぞれの立場がわかりやすく、児童の思考の助けになっていた。
- ・他の人の命を守る＝きまりを守る、ということを理解していたと思われるが、視覚的に分かるよう板書した方が良かったのではないか。
- ・「父が大切にしていたこと」がそのままねらいに迫るものであり、Yチャートで整理していた考えから、話し合いを通して、一歩深まった考えになっていた。

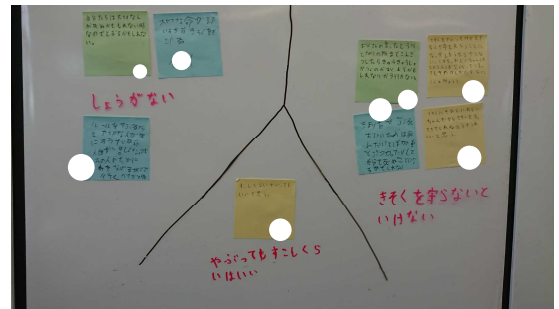
まなボード活用の様子



②個々の価値観の再考を促す問いについて

- ・児童が命について言及したときに、きまりということに焦点化させるために、効果的に問い返しを行っていた。
- ・三者での話し合い、全体での話し合いでも、自分の考えを積極的に発表している児童が多く見られた。

Yチャートによる板書



7 本実践の成果と課題

(1) 成果

- ① まなボードの活用により、書くことで個々の意見を表出させることができた。その後Yチャートを活用し、個々の立場を明確にさせることができた。そのことが児童の思考の深まりに繋がった。
- ② きまりを守ることの良さに焦点化させるために、「きまりはどんな状況でも守らなければならないのか」等の問い返しをし、児童の思考を整理しながら話し合いが進められた。

(2) 課題

- ① まなボードは思考を整理したり、書くことで交流できるツールではあるが、自分の考えを書く視点や活用の仕方を明確にすることにより、効果的な活用法を工夫する必要がある。
- ② 児童が「きまりを守る」という道徳的価値については理解していたが、その中できまりを守る難しさについても考えさせる必要があった。また、きまりを守ることが、社会全体の利益に繋がるということが、子供達にとって気づきにくい教材でもあったので、その点を気付かせられるような具体的な発問も考えておく必要がある。